

# 地域をつなぐ人

【伊勢】伊勢市小俣地区の中森一輝さん(28)は、約15坪の梨園地で「幸水」や「豊水」など8品種を栽培している。除草剤を使用しない栽培や有機質肥料の使用にこだわり、高品質を次世代に残そうと奮闘している。

中森さんは、今年で就農3年目を迎える。祖父が農家のため、幼い頃から農業に親しみがああり、いつかは農業に携わりたいと考えていた。JA伊勢で3年間働いた後、梨園地を借り、イチゴのハウス

## 伊勢市 中森 一輝さん(28)



梨を手に笑顔を見せる中森さん

### 小俣の梨将来に残す

を新設したのを機に就農した。

梨栽培では、昨年から除草剤を使用しない草生栽培に取り組んでいる。草刈り機で除草するため土壌に雑草の

根が残り、土壌流出の予防や土壌改善が期待できる。

また、化学肥料の使用をできるだけ少なくし、有機質肥料にこだわる。有機石灰などを

使うことで、木にストレスをかけずに栽培ができるので、味が濃く甘い梨に仕上がる。

今後について「黒星病を減らしていくために落ち葉の処理を徹底

する他、防除適期を見極めたい」と話す。

栽培以外の工夫として、直売所に出荷する梨の袋にオリジナルのシールを貼っている。別の品目にも同じシールを貼ることで、消費者の手に取ってもらう機会が増えた。

梨栽培の魅力について「購入した方に『おいしかった』と言ってもらえたり、リピーターになっていただけたりするのがうれしい。やりがいを感じると同時に、さらに頑張ろうと気合いが入る」と話す。

最後に「小俣地区では、梨の生産者の高齢化が進んでいるのが現状なので、栽培を続け、将来に小俣の梨を残していきたい」と話す。